

中国
南西部山岳地帯におけるアグロフォレストリー事業
現地からのお便り（2019年7月～2020年6月）

2020年8月
コンサベーション・インターナショナル

ガンブ村での活動

ガンブ村での活動は4年目に入りました。プラムやリンゴ、胡椒は今年になって実をつけ始め収穫のシーズンを迎えようとしています。一方でチェリーなど生育状況があまりよくない果樹には接ぎ木をしました。家畜に関しては、昨年は豚120頭と鶏300羽を販売し、この3年間で豚360頭、鶏400羽を販売することができました。また、昨年は1軒の養蜂農家が活動に加わり、200キロのはちみつを採集しました。

ガンブ村では毎年活動費の一部を使って村の景観をよくするための街路樹や共有林保全のための植樹を行っています。この3年間で計4000本の樹木と400キログラムの果樹の種が植えられました。また、2018年4月からは中国の主要食品会社と提携しているMaoyuanと呼ばれる農業協同組合と契約し、農作業の出荷を行っています。

ガンブ村の組合は地域住民、中でも所得の低い人々を積極的に雇用し、現在約30名の村人が日々の活動に携わっています。



（左）ガンブ村活動地の様子、（右）8月には収穫見込みのプラムの実

© Conservation International by Luo Xingbi



(左) 果樹園での草刈り、(右) ガンプ村で活動する女性たち

© Conservation International by Luo Xingbi

生物多様性と土壌炭素のモニタリング

プロジェクトサイトでは 2020 年と 2023 年に生物多様性および土壌炭素のモニタリングを予定していましたが、新型コロナウイルスの影響により活動が行えず、専門家やパートナー団体と協議した結果来年度に延期することになりました。

アグロフォレストリーモデルの近隣地域への普及

ガンブ村での取り組みは、この 3 年の間に近隣地域にも広がっています。ガンブ村から数キロ離れた Muka 村と Shajin 村の 2 村では、村の組合がガンブ村のデモサイトでの活動を模倣してアグロフォレストリーを始めました。2020 年 4 月には、四川省アバ・チベット族チャン族自治州タシリン県（理県）の森林局副局長が養豚の視察に村々を訪問し、ガンブ村のアグロフォレストリーの取り組みが地域の自然保全に貢献し、良質な豚の飼育にも繋がっていると高く評価しました。

Naliang フェスティバルに向けた準備

毎年 8 月に開催される「Naliang フェスティバル*」に向けて、今年もチャリティーに出展する商品の選択や寄付先の検討を始めたところでしたが、新型コロナウイルスの影響で今年のイベントは残念ながらキャンセルとなりました

* 「Naliang フェスティバル」は、ダイキン中国が主催するチャリティーイベントで、ダイキンの支援事業の中から特に優れた生産物を集めてスタッフに販売し、その売上金を貧しいコミュニティやへき地の学校へ寄付しています。



Naliang フェスティバルに向けた要望調査の様子
© Xishuangbanna Nature Reserve

新型コロナウイルスによる活動計画の変更

今年度は新型コロナウイルスの影響で、アグロフォレストリーの研修や看板設置など予定されていた現地での活動が実施困難となりました。その代わりに、残りの予算を使ってガンブ村から要望がでていた岷江（Mingjiang river）流域における小規模湿地の調査が実施されることになりました。岷江はガンブ村の上流にあり、流域に点在する湿地は地域の農業を支え、気候変動緩和や多様な生き物の生息場所として重要な役割を果たしています。調査は 8 月から始まり、将来的な小規模湿地の修復計画策定まで行う予定です。

今後の予定

ガンブ村と Xiaozhaizigou 自然保護区の 2 つのプロジェクトサイトでの活動のモニタリングを継続して行うと同時に、これまでの活動成果や経験を取りまとめ、活動モデルの他地域への展開へと役立てていきます。また、今期（2019 年 7 月～2020 年 6 月）に実施できなかったガンブ村での生物多様性と土壌炭素のモニタリングを実施する予定です。



(左) チベットの黒豚、(右) チベットの黒豚と鶏の飼育小屋
© Conservation International by Luo Xingbi



レモングラス苗木 (1月)
© Xishuangbanna Nature Reserve



レモングラス苗木 (7月)
© Changtianba Village by Siyou